

かるがも



第36号

発行所 千葉県こども病院

〒266-0007 千葉市緑区辺田町579-1

TEL 043-292-2111

FAX 043-292-3815

<http://www.kodomo.umin.jp/>

猛暑の夏を終えて

病院長 伊達 裕昭



異常気象が新聞をにぎわせた今年の夏でした。高知では41℃の国内最高気温を観測したほか、局地的なゲリラ豪雨や竜巻による被害も各地で報じられました。この9月は関東大震災から90年目にあたり、震災への備えが改めて強調されましたが、一方ではこうした異常気象への対応も考慮せざるを得ないほど、昨今の日本の気候は変わってしまったようです。

変わったのは気候ばかりではありません。15才未満の人口は約1,650万人（総人口の12.9%）と32年連続で減少し、少なくなったこども達が育つ環境も最近はかなり変わってきました。

電車に乗ると車窓の景色に眼をやる人は皆無で、誰もがうつむいて一心不乱に携帯電話やスマホに向かっています。そのまま前も向かず道路を歩く人さえいます。これらの情報通信機器の普及により、人と人が直接に触れ合うことが無くて、ネットを介して大勢の人と意見を交換でき、情報の発信・収集も簡単にできるようになりました。現代社会は意識的に、家族を含め、煩わしい他人との接触を避けて済ませることができる環境を作っているようにさえ思えます。いまや中高生の8%は病的な「インターネット依存症」と言われます。無かった昔には戻れない以上、この便利な道具の使用法については、今一度考え直す必要があるようです。

こども病院でこの秋から開始するウェブ面会システムは、病院でのこうしたIT機器の利用方法の一つです。これまで、患者さんの病状や医療環境を考慮して直接の面会をご遠慮いただいていた兄弟姉妹などのご家族も、院内の決められた部屋と病棟間の回線を通して、大型テレビとタブレット端末の画面上での面会が可能になります。まずは、長期入院が必要で、兄弟姉妹や近親者との直接の面会が難しい病状の患者さんから開始し、徐々に対象を拡大します。定着するにはまだ時間を要しますが、この新しい試みを活用していただけますよう、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成25年10月

感染対策チーム(Infection Control Team: ICT)

ICTは、病院内で生じた感染症から患者様や職員の安全を守るために活動しています。メンバーは、医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、栄養士、事務局担当など、さまざまな職種により構成されており、それぞれが連携することで病院内のあらゆる部門の感染管理に携わっています。

ICTの重要な業務として、サーベイランス（データの収集と分析）、コンサルテーション（相談への対応）、院内ラウンドが挙げられます。サーベイランスの対象は、耐性菌の分離状況や手指消毒剤の使用量などであり、耐性菌保菌者の把握、感染対策の遵守状況の確認を行っています。また、耐性菌感染症に使用する特定の抗菌薬については、届出制とすることで使用状況の調査を行い、適正使用を推進しています。コンサルテーションは、感染対策に関するものから、感染症治療に関するものまで、各種相談に随時対応しています。

院内ラウンドは、週に1回（毎週火曜日）、全病棟を対象として実施しており、現場の状況や問題点の把握に努めています。こうして収集されたデータを分析し、各部署に対しタイムリーにフィードバックする

ことで、感染対策が破綻しないよう常に注意をしています。このような活動は、院内感染アウトブレイクの早期察知にも役立ちます。異常を察知した場合は、アウトブレイクの発生を未然に防ぐため、早期介入を行っています。

感染管理を確実に行うためには、個々の職員に正しい感染対策を実施していただくことも重要です。ICTでは、感染対策の標準化を図るため、各種マニュアルの整備を進めています。また、全ての職員に感染対策の重要性を理解していただくとともに、身近に感じていただけるよう、勉強会等の教育活動にも重点を置いています。同時に、ICTメンバー自身のレベルアップも大きな課題であり、ICT内での勉強会を毎月開催しています。

その他に、流行性ウイルス感染症、肝炎、結核、針刺し・切創対策などの職業感染対策を通じ、職員の安全確保にも力を入れています。

感染症科 (ICT) 星野



周産期ネットワークの紹介

今回は当院の「周産期ネットワーク」についてご紹介いたします。

当院では2012年4月に周産期棟を開設しましたが、現在県内の妊婦管理は千葉大産科を中心に行われております。胎児に異常の可能性のある場合は、まず千葉大産科を受診します。胎児心疾患が見つかったら、このネットワークを介して千葉大産科および当院スタッフ(循環器、産科、新生児科など)が相談を行い、分娩計画を立てます。このシステムでは種々の画像、動画をそれぞれ別の病院から見るすることができますので、胎児のエコー動画をいっしょに見ながら相談することができます。また個人情報保護も十分配慮されており安全です。

当院では毎月定期的に周産期ネットカンファレンスを開催しており、胎児の情報交換および出生後の画像による産科へのフィードバックなどを行っています。最近では千葉県循環器センターも同時に参加するようになりました。2012年度は18人の先天性心疾患が出生前診断され当院で治療されました。また、心臓以外の疾患(消化器、脳神経)でもこのネットワークは必要に応じて活用されました。

今はまだ、胎児診断されずに生まれてから搬送される赤ちゃんが多いのが実情ですので、地域NICUとの連携も大切です。その手始めとして君津中央病院NICUとの接続も開始しました。今後は定期的なカンファ以外に緊急の相談や教育などに、また看護師などもふくめた多部門で活用していくこととなります。

また将来的には県内NICUだけでなく、地域産科とのネットワーク構想も検討中です。

循環器科(ネットワーク委員会) 中島

公開カンファレンスの開催報告とご案内

第23回は平成25年6月26日に開催し、以下4題について講演が行われました。

- | | |
|---|--------|
| 1) 末梢血に異常がないことがあります
ー四肢痛を主訴に御紹介いただいた悪性腫瘍の患者たちー | 血液・腫瘍科 |
| 2) 生後1カ月女児、呼吸困難・心拡大の1例 | 心臓血管外科 |
| 3) C型肝炎の治療について | 代謝科 |
| 4) 創傷治療 ー創縫合と処置ー | 形成外科 |

第24回は平成25年10月23日に開催し、以下4題について講演が行われます。

- | | |
|--------------------------|----------|
| 1) 進行性骨化性線維異形成症の1例 | 整形外科 |
| 2) 神経外傷 ーこどもの脳と脊髄を守るためにー | 脳神経外科 |
| 3) 当院精神科診療の現状と課題 | 精神科 |
| 4) 新生児医療における最新の進歩 | 新生児・未熟児科 |

第25回は平成26年2月26日(水)19時30分より当院第一会議室で開催いたします。

多くの先生方のご参加をお待ちしております。講演内容は1月上旬にホームページにてお知らせいたします。

千葉県こども病院県民公開講座の開催報告とご案内

千葉県こども病院では県民の皆様にごども病院を知っていただきたいと、年に2回県民公開講座を開催しております。

テーマ：「頑張りすぎない子育てーポジティブ・ディシプリンのすすめー」
講師 公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 森 郁子先生で
平成25年7月21日（日）に開催いたしました。



次回は下記の開催予定です。県民公開講座の受付開始は12月下旬頃ホームページにてお知らせいたします。託児をご利用の場合、あらかじめの託児の申込が必要です。

開催日：平成26年1月26日（日） 時間：14時～16時 会場：千葉市「きぼーる」

テーマ：「子どもの眠りは大人の眠りを写す鏡」

講師：東京ベイ・浦安市川医療センター CEO 神山 潤先生

※託児所：講演会場と同じ施設内に託児所を設けます。



すくすく通信

第8号

このコーナーは診療科を順にご紹介します。

血液腫瘍科

千葉県こども病院血液腫瘍科は、白血病やリンパ腫、神経芽腫や横紋筋肉腫のような小児がんと言われる疾患の化学療法を中心に行っています。特に小児医療専門施設として小児外科系との連携による集学的治療がスムーズに行われることは自慢の一つです。良性腫瘍では血管腫やリンパ管腫のうちで抗凝固療法が必要な場合は管理をお引き受けしています。乳児血管腫ではプロプラノロールが著効する場合がありますのでご相談下さい。（ただしプロプラノロールは血管奇形には無効です）。また再生不良性貧血、先天性免疫不全症、一部の代謝異常症などの造血幹細胞移植も入院治療として行われます。移植療法の最近の話題は症例により両親がドナーとして選ばれる場合があることです。そのほかでは、先天性・後天性溶血性貧血、好中球減少症、血小板減少症が必要時入院治療となります。外来では白血病やリンパ腫の維持療法、サラセミアや遺伝性球状赤血球症、鉄利用障害などの診断と治療を行っています。悪性リンパ腫との鑑別目的にリンパ節腫脹の患者様を多くご紹介いただいています。血液凝固障害などの診断と治療も重要な部門です。特に血友病A、Bなどの先天性凝固因子欠乏症（その他V因子、Ⅶ因子、Ⅷ因子、プロテインC etcの欠乏症）の診断と治療は専門施設が少ないため多くの患者様の管理を行っています。血友病性関節症の治療は小児整形外科と連携して関わっていますが、関節症にならないよう出血予防のための家庭内定期自己注射の指導、自立支援が重要であり、勉強会の開催や患者会の支援を行っています。



沖本 由理

この他、血液腫瘍科病棟では「長い入院生活を楽しく」をモットーとし、病棟保育士、チャイルドライフスペシャリスト、特別支援学校の先生方、理学・作業療法士、ボランティアの皆さんなど多くの職種が関わっています。栄養士による食育、薬剤師による人形劇を使ったお薬教室なども開催しご家族や子どもたちが退院しても自分で病気と闘えるよう心を砕いています。

眼科

千葉県こども病院眼科は15歳、中学卒業までの患者様を対象として診療をおこなっています。県内のみならず県外からも患者様の紹介を頂き交通の便が悪いにもかかわらず外来は毎日混雑しております。人間の情報の80%は視覚からと言われるくらい視機能は大切な機能です。両眼視機能は出生時に完成しているのではなく適正な視覚刺激を受けながら発達し、生後3・4カ月から6歳ころまでが視覚の感受性期と言われます。対象となる疾患は先天性疾患（眼瞼下垂や内反症、先天性鼻涙管閉塞など）、腫瘍、感染、霰粒腫、白内障、緑内障、など様々です。数の上では斜視弱視が最も多く斜視手術は4泊5日の入院で年間140-150例を全身麻酔下で施行しています。屈折異常に対しては眼鏡の処方が多く、装用にはご家族の協力が必要です。白内障、緑内障も成人とは異なる成因から発症しているため治療も経過も異なります。他科との連携もうまくいっており、全身疾患やその治療（ステロイド使用など）に伴う合併症や発達障害、重複障害、被虐待児など様々な症例を経験しています。心因性視覚障害も近年増えており、ときには児童精神科に紹介して治療をお願いすることもあります。器質的には異常のないことを家族に告げ過剰に心配しないように説明します。



磯部 真理子

また治療だけではなく千葉盲学校の協力で0歳児から対象とする出張教育相談を当院でおこない、視覚障害のあるお子さんの生活環境の整備や教育への橋渡しにも努めています。

少子化と言われて久しいですがまだまだ需要はあるようで新患の予約が数カ月待ちになっているのが心苦しいところです。眼科医3名と視能訓練士4名で毎日診療しております。開院以来20年を過ぎ、卒業となる患者様をまた地域の先生方へ紹介させていただいております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

MSW(医療福祉相談員)の紹介

はじめまして。千葉県こども病院のMSW（医療福祉相談員：メディカル・ソーシャル・ワーカー）の五十嵐（いがらし）と河野（こうの）といます。

MSWの仕事は、「よろずや」とでも言いましょうか。一般的に、医療費や社会福祉資源についての相談を受ける人というイメージがあると思います。もちろんそのようなご相談を受けることも多くありますが、実際には、院外関係機関（学校・保健センター・児童相談所・訪問看護ステーション・訪問診療医・かかりつけ医など）との合同カンファレンスの日程調整や、新規患者の受診相談、患者様の家族と医師・看護師との関係調整など、調整役をすることがとても多いです。

家族の一人が病気やけがをすると、それが一時的であったとしても、家族機能がバランスを崩してしまいます。私たちは、はっきりとしたSOSが本人や家族から発信されなくても、ケアを必要としている状態であると自覚していなくても、そっと患児や家族に寄り添い、本来の家族の力を発揮できるよう支援したいと考えています。

患児・家族がハッピーであることが大切です。



千葉県こども病院

〒266-0007 千葉県千葉市緑区辺田町579-1
TEL.043-292-2111 FAX.043-292-3815

詳細は病院ホームページをご覧ください。<http://www.kodomo.umin.jp/>